

(注) 本月報は、主に現地紙における報道を当館限りで日本語でまとめたものです。記事の中の客観事実は日本政府や現地政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承ください。

ベナン月報(2018年8月)

主な出来事

【内政】

- 1日、コトヌのエトワール・ルージュ広場において、58回目を迎えるベナン独立記念式典が執り行われた。また、ベナン各地で独立記念セレモニーが執り行われた。同式典でタロン大統領は、任期半ばにある自身の成果として、給水、道路整備などの進展と汚職撲滅の著しい前進を強調した。また、直前に国民議会で否決された憲法改正について、国民投票にて真意を問わない旨述べた。

【外政】

- 30日-9月1日、東京においてアフリカ賢人会議が開催される。同会議は日本財団及び日本の外務省の共催により執り行われ、アフリカの元国家元首によりアフリカにおける安全及び安定について議論が行われる。ベナンからはソグロ元大統領が招待されている。
- 30日、タロン大統領は、9月3、4日北京で開催される中国・アフリカ協力フォーラムに参加するためベナンを出発した。アベノンシ外務・協力大臣、ワダニ経済・財務大臣、ホメキ観光・文化・スポーツ大臣、アダンビ水利・鉱山大臣及びトナト生活環境・持続的開発大臣の5閣僚が同行する。

【経済】

- 23日、計画・開発省において、日ベナン経済協力政策協議が開催され、両国間で進行中の案件や TICAD 及び西アフリカ成長の輪の枠組みのもと進められている計画について協議された。小西大使及びアベノンシ外務・協力大臣らが出席した。
- 24日、アラダ病院の開院式が行われた。ウンパティン保健大臣、小西大使、アクレイント・アラダ市長らが参加した。同病院は65の病床と最新のテクノロジーを備えており、110億 FCFA をかけて建設され、そのうち100億 FCFA あまりが日本の出資によるものである。

※下記内容は、La Nation 紙、Le Matinal 紙、L'Événement Précis 紙、L'économiste 紙、La Nouvelle Tribune 紙および Le Matin Libre 紙の記事を元に記載したものです。

【内政】

- 7月31日、コトヌ第一審裁判所は、不正経理で逮捕されていたメトニオン元国家社会保障金庫(CNSS)理事長に対し、禁固5年、罰金100万FCFA、国家に対する損害賠償金7千1百万FCFAの支払いを命じた。メトニオン被告は、控訴を表明している。(2日、L'Événement Précis 紙)

- ・ 1日、コトヌのエトワール・ルージュ広場において、58回目を迎えるベナン独立記念式典が執り行われた。また、ベナン各地で独立記念セレモニーが執り行われた。同式典でタロン大統領は、任期半ばにある自身の成果として、給水、道路整備などの進展と汚職撲滅の著しい前進を強調した。また、直前に国民議会で否決された憲法改正について、国民投票にて真意を問わない旨述べた。(2日, La Nation 紙)

【外政】

- ・ 30日-9月1日、東京においてアフリカ賢人会議が開催される。同会議は日本財団及び日本の外務省の共催により執り行われ、アフリカの元国家元首によりアフリカにおける安全及び安定について議論が行われる。ベナンからはソグロ元大統領が招待されている。(27日, L' Evénement Précis 紙)
- ・ 30日、タロン大統領は、9月3、4日北京で開催される中国・アフリカ協力フォーラムに参加するためベナンを出発した。アベノンシ外務・協力大臣、ワダニ経済・財務大臣、ホメキ観光・文化・スポーツ大臣、アダンビ水利・鉱山大臣及びトナト生活環境・持続的開発大臣の5閣僚が同行する。(31日, L' économiste 紙)

【治安】

- ・ 7日、共和国警察は、北東部カンディにおいて、豪雨の影響により家屋62戸が倒壊し、化学肥料や家畜が洪水で流されるという災害を受けて、彼らの被害証明書を発行するとした。(9日, Le Matinal 紙)
- ・ 14日、北東部カンディにおいて、共和国警察及び W 公園の森林監視員は象牙8本分の密輸の疑いで3名を逮捕した。(16日, Le Matinal 紙)
- ・ 16日、ポルト・ノボのウアンド(Ouando)市場の交差点において、バイクを運転していた50代の女性が若者2人に密造銃で銃撃され、鞆等を強奪された。NGO である「Bornefonden」に勤める被害者女性は、バイクタクシーで搬送されたが死亡した。犯人は逃走中である。(17日, Le Matinal 紙)
- ・ 16日、トヌクイン共和国警察モノ県長官が急死した。同氏は前日まで、駐ベナン米国大使館が開催するワークショップに参加していた。現在検死が行われているが、心臓発作が原因とみられている。(17日, Le Matinal 紙)
- ・ 24日、共和国警察は、ナンバープレートを有していない自動二輪車に対する取り締まりを開始した。(27日, Le Matinal 紙)

【経済】

- ・ 7月31日、ダッサズメ市のパツクレ・ヤワ小学校において、同小学校増築計画に係る署名式が行われた。3、100万 FCFA に上る同計画により、校舎が供与されることになる。小西大使及びファン・ダッサズメ市長が参加した。(6日, L' Evénement Précis 紙)
- ・ Organisation Development Initiatives の2018年6月の報告書によると、ベナン国民の65%が、世界の最貧層20%に、このベナン国民の65%の収入がベナンの収入の3.2%を占めている。ベナン人 1 人1日あたりの消費金額は2.54米ドルであるが、同65%の

- 人々の消費金額は、0.95米ドルとのことである。(7日, L' économiste 紙)
- ・ 13日, ナイジェリア籍の Overland Airways 社は, ラゴスーコトヌーロメ間の運航を開始した。ラゴス発は毎週月, 火, 木, 日に運航される。(14日, La Nation 紙)
 - ・ 14日, 中国文化センターにおいて, アイス産業・商業大臣は, 第10回西アフリカ中国物産展開会式に参加した。14-17日で開催され, 150のブースが出展され, 55社から65名の企業人が出席し, 400点以上の商品が展示される予定である。同物産展はベナンで開催される国際展示会の中で最大規模であり, 西アフリカのみならずガボンやコンゴ(民)といった中央アフリカ, ケニア, エチオピア, ジブチ及びエジプトなど東アフリカの実業家も参加する。(16日, L' économiste 紙)
 - ・ 14日, 同中国物産展の開会式において, ベン駐ベナン中国大使は, 2017年の中べ間での貿易総額は米国, 仏国に次ぐ20億米ドル(1.12兆 FCFA)に達した旨述べた。ベナンから中国への輸出量が65%増えたとし, 農作物の対中輸出の増加を図っていききたい旨述べた。(17日, L' économiste 紙)
 - ・ 20日, ベナン国营放送(ORTB)において, ベナンのインフラ開発についてのドキュメンタリーが放送された。同番組によると, これまでタロン政権により, ベナン全土629.7Kmの道路が整備された。タロン大統領の推し進める「政府行動計画(PAG)」には, インフラ分野で2.2兆 FCFA, 47のプロジェクトが含まれている。(22日, Le Matinal 紙)
 - ・ 23日, 計画・開発省において, 日ベナン経済協力政策協議が開催され, 両国間で進行中の案件や TICAD 及び西アフリカ成長の輪の枠組みのもと進められている計画について協議された。小西大使及びビオ・チャネ計画・開発大臣の代理でアベノンシ外務・協力大臣らが出席した。(24日, L' Evénement Précis 紙)
 - ・ 24日, アラダ病院の開院式が行われた。ウンパティン保健大臣, 小西大使, アクレイント・アラダ市長らが参加した。同病院は65の病床と最新のテクノロジーを備えており, 110億 FCFA をかけて建設され, そのうち100億 FCFA あまりが日本の出資によるものである。日・ベナン間の保健分野における協力は, 80年代にさかのぼり, 医療機器の供与, ラグューン母子病院の整備, 保健分野における研修の実施, 青年海外協力隊の派遣等が行われてきた。(27日, L' Evénement Précis 紙)

【文化・その他】

- ・ 1日, 中国文化センターにおいて, 8月1日のベナン独立記念式典の一環で, コンサートが開催された。(3日, La Nation 紙)
- ・ 2日, 国立大学病院精神科(CNHUP)において, 日本大使館及びCNHUPの共催で, 日本の4大学の精神科の協力の下, 両国間の精神科医療情報に関するセミナーが開催された。(6日, L' Evénement Précis 紙)
- ・ 2日, 2018年の中等教育課程第1サイクル(日本の中学校に相当)の結果が発表された。ベナン全土で合格率は28.63%で, 昨年(2017年)の50.56%を大きく下回った。リトラル県(コトヌ市)は40.36%であった一方, 北部のボルグ県やアリポリ県は20%程度であった。中

等教育・職業訓練省担当は教員のストライキにより、十分な授業が行われなかったことが原因であると説明した。(3日, La Nation 紙)

- ・ 6日, JICA が実施する「アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ(ABE イニシアティブ)」第5バッチ壮行会が行われた。ベナンからは2人が選出された。これから3年間, 日本の大学院での研究と企業での研修をすることになる。当プログラムでは, 今回アフリカで200人以上が選抜された。ベナンでは2015年以来, これまで7名が参加している。(7日, Le Matin Libre 紙)
- ・ 9日, 外務・協力省において, JICAベナン支所主催による保健, 教育及びコミュニティ開発分野の青年海外協力隊員の年次活動報告会が行われた。同隊員のベナンへの派遣は2005年より始まり, これまで294名の隊員がベナンで活動した。(10日, Le Matin Libre 紙)
- ・ 11日, ベナン武道連盟は, ベナン空手連盟及びノビメ国民議会議員の協力のもと, 空手選手権を開催する。コトヌやポルト・ノボの空手家90名が参加する予定である。(10日, Le Matin Libre 紙)
- ・ 9-12日, ベナン合気道スポーツ連盟である無涯塾は, 第四回合気道国際研修会を実施した。ニジェール, コートジボワール及びトーゴから合気道家が参加した。また, 日本から藤岡弘師範(6段)がベナンを訪問し, 指導した。ベナンでは, 2009年から合気道が行われている。(13日, La Nation 紙)
- ・ 17日, ペン駐ベナン中国大使は, 2018-19年の中国政府給費生として中国に留学するベナン人38名に対し, 留学証明書及び航空券を手交した。アタナソ高等教育・科学技術大臣が同式典に参加した。(22日, La Nation 紙)